

■お礼のことば

「広重賞 第17回恵那市こども版画コンクール」作品展が今年も開催できますことに感謝申し上げます。恵那市内のこども園・保育園、小中学校、特別支援学校の皆さまが、限られた時間の中で工夫を重ね、表現した作品を中山道広重美術館で展示公開させていただきます。園や学校で、ご指導いただいている先生方のご努力に心から感謝申し上げます。

また、ご後援いただきました恵那商工会議所、恵那市恵南商工会、恵那市商店街連合会、(一社)恵那市観光協会、(公財)恵那市文化振興会、恵那市小中学校校長会、明知鉄道(株)、(公財)日本大正村、恵那ライオンズクラブ、恵那ロータリークラブ、(一社)恵那青年会議所、その他関係者各位のご支援に対し、重ねてお礼申し上げます。

■版画コンクールへのねがい

子どもたちが、自分の生まれ育ったふるさとの景色や身近な人々との関わりを見つめ、発見したこと、感じたことを版画にすることで、作品を創り出す楽しさを経験し、またふるさを思う心を養うことを願い、進めています。

第17回恵那市こども版画コンクール審査会を終えて

本コンクールにおいて、今年度は33のこども園、保育園、小中学校、特別支援学校から3,002点の応募があり、このうち168点が特別賞、奨励賞、入選に選ばれました。今年度は特別条件の厳しい中、たくさんの作品をお寄せいただきありがとうございました。(前回第16回展 出品点数 2,892点)

■作品審査の現場から

作品審査は新型コロナ感染予防対策のため、例年とは違うものとなりました。大きな会場が必要となり、恵那市民会館を利用して行いました。審査はこども園・保育園、小学1・2年、小学3・4年、小学5・6年、中学校と5ブロックに分かれて行いました。会場がいっぱいになるほどの作品を広げ、審査員たちは言葉を交わしながら、1点1点丁寧に作品を選んでいきました。

始めに入選総数を選出します。その後、奨励賞と特別賞候補を選び、その中から特別賞、奨励賞の評価を審査員全員で進めます。最終特別賞については審査員一人一人が、自分の選んだ作品をどのように評価したかを具体的に説明し、意見交換の後、挙手によって決定します。このように、厳しい審査の過程から選び抜かれた作品たちには、私たちの心を動かすものがあります。

今回の出品作品の中には、素材を求める方向が一律になりがちなか中、しばりのない自由な発想で、身近にある物事から題材を見つけ出した秀でた作品がいくつも生まれました。ごくありふれた日常の中で目にしたり、感じたりしたことの中から生まれた作品もその一例です。広重賞受賞作品「武並神社」(水野幸将 恵那北小学校6年)は、鳥居を物語の中心に置いて、周辺にある空気までも作品に描き込んでいます。それは、作者が幼少期から現在までその場に生きた証でしょう。

また、恵那市議会議長賞受賞作品「故郷の美を伝える木版画」(原しゅう 恵那東中学校2年)の風景は、作者自らが選び作品化したものです。構図の確かさと、白黒のバランスの良さ、また壁面を大きく黒で処理し、流れをしっかりと描いていた点も好感が持てました。

これら以外にも注目作品が数多くあります。紙版画作品にも秀作が多く、自由な表現で自らの思いを確かな形とした作品をたくさん見ることができました。

■その他、こども版画コンクールの作品展も 17 回を迎えることができました。教育委員会をはじめ、子どもたちと園や学校、先生、そして中山道広重美術館と実行委員が一体となって進めてきたこのコンクールは、今では全国でも類を見ないほど大規模な事業へと発展しています。本事業が地域にしっかり根を下ろし、未来へとつながっていくことが、ふるさと恵那の大切な版画文化を後世に伝える一助になることを願うばかりです。

今年度からこども園・保育園、小中学校への講師派遣を実施しました。中山道広重美術館(事務局)で「こども版画コンクール応援講師派遣事業」の提案があり、こども版画実行委員を中心に、園や学校へ出向き、先生や生徒と共に学校での版画制作を行いました。限られた時間の中でどのように作品を仕上げ、どのように学び合うのかを今後の課題としました。

文責：永谷 繁明（実行委員長）

第
17
回

広重賞 恵那市こども版画コンクール
広重賞作品展



主催：恵那市教育委員会（公財）中山道広重美術館
後援：恵那市工務部、恵那市恵那山会、恵那市南田連合会、（社）恵那市観光協会、（公財）恵那市公民館興会、恵那市小中学校校長会
明和堂道（株）（公財）日本大正村、恵那ライオンズクラブ、恵那ロータリークラブ、（社）恵那青年会連合会

第17回広重賞受賞作品「武並神社」恵那北小学校6年 水野 幸将さん 作

会期 2月27日(土)～3月14日(日) 中山道広重美術館 展示室 2(2F) ※観覧無料
令和3年
2021年

同時開催
企画展

双筆五十三次 —新規収蔵品お披露目—

会期 2月27日(土)～3月28日(日)

●こちらの企画展は観覧料が必要です：大人 520円 (20名以上の団体は 420円) △18歳以下無料 展示室 1(1F)

中山道広重美術館
Hiroshige Museum of Art, Ena

T 509-7201 岐阜県恵那市大井町176-1 TEL(0573)20-0522 FAX(0573)25-0322
HP <https://hiroshige-ena.jp>

広重賞 第17回恵那市こども版画コンクール

入賞・入選数：特別賞 17点、奨励賞 27点、入選 124点（総出品数 3,002点）

作品展：2021年2月27日(金)～3月14日(日)

中山道広重美術館 展示室 2(2F)

表彰式：2021年3月7日(日) 午後1時30分～、2時～(2部制)

中山道広重美術館 講座室(3F)

広重賞

「武並神社」

恵那北小学校6年 水野 幸将 さん



神社の鳥居を描いたこの作品は、木版画で大切な白と黒の配分や、彫りに対する判断が高く評価された。描かれた神社や鳥居の周辺は、こども達の絶好の遊び場で、秋祭りには家族で近所の人々と祭りを楽しんだ思い出の場所でもある。その鳥居の彫りの多様な表現の中に、思い出をも重ねた歴史の重さを感じることができる。また鎮守の森を黒く残し、木立をかすかな彫りで表し、森の深さを際立たせたのも見事だ。空の表現では、帯状の彫りに少しずつ角度をつけ変化を美しく見せる工夫が、作品をさらに豊かにした。観る者の心に届く作品となった。

恵那市長賞

尊い命

大井第二小学校 6年

小幡 孟 さん



白黒版画に彩色をした作品である。鳥が口を大きく開き、カブトムシ、チョウを飲み込もうとしている。口の中は赤く迫力満点の作品だ。鳥の毛やカブトムシの飛ぶ様子もよく描け、表現力にも優れている。作品をよく見ると鳥の目から涙が流れているようだ。食べる喜びより虫たちを食べてしまうが「生きるためごめんね」のやさしい気持ちでいるからだろうか。私たちは魚や動物の肉、野菜、果物を食べて暮らしているが、題名のように『尊い命』を頂いて生きていることを忘れてはならないと作品は訴えているようだ。6年生の児童とは思えぬ立派な作品だ。

恵那市議会議長賞

故郷の美を伝える木版画

恵那東中学校 2年

原 しゅう さん



故郷の風景として「恵那峡大橋」を描いたものと思われる。モノトーンの版画作品では、白と黒の割合が大事であり、白と黒の割合は4対3が理想と言われている。この作品はそのような割合で描かれており、バランスが良く、全体が落ち着いている。橋が遠近法で正しく描かれており迫力がある。バックの岩を彫りすぎなく黒を残したのが良い。木曾川の描き方も川が流れているようで、水の動きを感じる。白黒の良さをよく表した作品である。

恵那市教育長賞

とれたて ミニトマトだよ！

大井小学校2年

原 つばさ さん



原さんはきっと、毎日ミニトマトのお世話をしながら、大切にそだててきたのでしょうね。ミニトマトへの思いが、顔のかくどやひょうじょう、目線、ゆびなど、さまざまなぶぶんにひょうげんされています。また、ミニトマトの色つかいがほんものらしさを引き立たせ、しんせんさやおいしさをかんじさせるとともに、作ひんにインパクトをあたえています。しゅうかくをよろこぶ心のうごきが つたわってくる さくひんです。

中山道広重美術館館長賞

ばったが、きれいだなあと

そらをとんでいるところ

東野こども園 年長

西尾 一瞳 さん



ばったが おおきな はねをひろげて そらをとんでいます。めのまえには かわいらしい はなびらが まっています。ばったは ちょうどおちてきた はなにも きれいだなあとおもったのかな。はさみを じょうずにつかって ばったのしょっかくが するどくあらわされています。また、ばったのまえばねは いちまいのほんで、あとばねは こまかなせんのもようをつけています。ばったのとくちょうを よくかんさつして こまかく ひょうげんを わけているところにおどろきました。

恵那市文化振興会会長賞

私とピアノ

山岡中学校 1年

西尾 咲映 さん



西尾咲映さんの版画「私とピアノ」はテーマが明確で、ピアノを奏でることが大好きな西尾さんの日常の様子が生き生きと伝わってきます。それは、楽譜と明るい光を画面に効果的に構成し、指先だけに焦点を絞り、心模様を表そうとした工夫が良かったのでしょう。気持ちが素直に伝わり若さを感じ好感の持てる作品となりました。自分の気持ちをストレートに表現することも表現の世界ではとても大切なことなのです。

恵那商工会議所会頭賞

思い出の靴

恵那北中学校 3年

福原 優羽 さん



思い出の靴と題にあるように、中学3年間一緒にクラブ活動した靴なのだろう。ボールと共に愛情があふれている様子が分かる。左の空間にボールの一部を置いた構図も決まっている。また、細部まで丁寧に彫っており、摺りも美しい。同学年の中で目を奪われる秀作と思う。

恵那市恵南商工会会長賞

やまなしが落ちてきた

上矢作小学校6年

飯島 雫月 さん



6年生の国語の教科書に掲載されている宮沢賢二の『やまなし』の一場面。川に落ちてきたやまなしをカニの兄弟、または親子が囲んでいる。本図は配色が巧みだ。最初にベースとなる白を摺り、一部に青をにじませている。水中をイメージして入れたのだろうか。そして、黄色の上に緑を荒く重ね、やまなしのごつごつとした質感を生み出している。最後に黒を摺り重ねることで、画を引き締めている。川の流れを表す彫りも良く、彫り・摺り・構成ともにバランスのいい作品だ。

恵那市商店街連合会会長賞

カニVSマグロ しんかいのたたかい

大井小学校3年

太田 昂志 さん



小学校三年生が、海の中を紙はんがでひょうげんしようとした点からして、ユニークです。海のひょうげんはともかく、水の中の生き物を、はんがらしく黒で上手くひょうげん出来ていると思います。上から見れば、このように色は黒っぽく見えるはずですが、そしてカニ、マグロとも紙いがいのざいりょうを使うくふうもされています。さらにおもしろい点は、水族館てきなひょうげんではなく、カニとマグロのバトルが、こども心をすなおにひょうげんされていると思います。

恵那市観光協会会長賞

ごへいもち ガブツて食べたよ

飯地こども園 年少

西尾 泉 さん



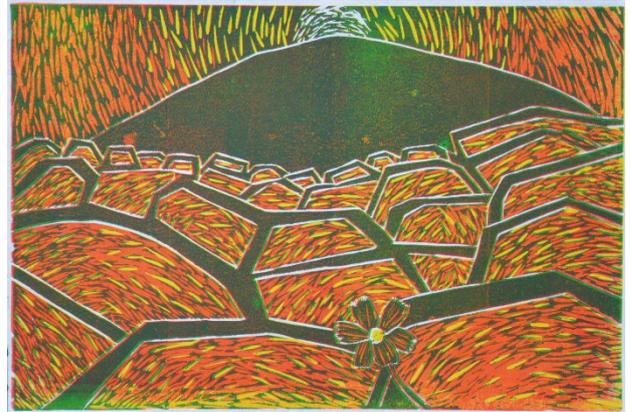
めを おおきくみひらいて くちを おおきくあけて ごへいもちを がぶり！ おおきくあけた くちからは はまで みえています。 そのごへいもち、おいしそう～。 このさくひんを みたひとは みんなごへいもちが たべたくなっちゃう とおもいます。 いちどりょうてのはんをつくり ゆびさきだけをおりまげ くしをつかませている くふうは すばらしいと おもいました。 おとさないように くしをしっかりとって だいに あじわう せんさんの しあわせなじかんが あらわされています。

恵那市観光協会会長賞

夕日に当たる棚田

中野方小学校5年

酒井 悠衣 さん



夕日の色の暖色が暖かく画面をつつみ込んでいる。そこに、そっと入っている一輪の花が、観る人を優しい気持ちにさせてくれる。線がいきいきとしていい。山や棚田の黒に、少しだけ緑が入っているところもいい。棚田に奥行きがあって、棚田の広さがよくわかる。大胆な構図に、繊細な線と色。いい絵だ。

恵那市小中学校校長会会長賞

おもいがほれたよ につこにこ

恵那北小学校1年

水野 花 さん



このさくひんは、せいかつかのじゅぎょうで、おもいほりをしたときのようすを スチレンはんがで ひょうげんしたものです。大きいサツマイモをほることができて とてもうれしい気もちが、がめんぜんたいから つたわってきます。『につこにこ』のひょうじょうや はねるかみのけ、おもいもち上げるために 大きくひらいたゆびなど、こまかいぶぶんまで くふうして しあげてあります。花さんの げんきなわらいごえが きこえてくるような いきおいのあるさくひんです。

明知鉄道社長賞

まめはきらいだー！ にげろー！

明智小学校1年

吉田 凌馬 さん



このおにを見ると みなさんは きっと じぶんのしっている おにばなしを おもい出されるでしょう。あいきょうのあるかおで ともだちになれそうです。なげられている豆からにげながら、なげているじんぶつのほうをうれしそうに見ていることが 目のひょうげんから わかります。それはかみを「ちぎる・きる」という 二つのほうほうを上手につかって やわらかさと かたさを 出しているからです。かなぼうを よこにしたことで おにがないしんは たのしんでいるのでは とかんじさせています。

日本大正村理事長賞

イエ〜イ どうだ！

明智小学校4年

水谷 悠乃 さん



「イエーイどうだ！」と言うはくりよくに、思わず「参った！」と返してしまいそうです。このどうどうとした中の ゆたかな ひょうじょうには、ちょうこく刀での ほりのよさが 光ります。顔や手は、その曲面にそって ていねいに 細かく彫り、丸みを表しています。かみの毛の細く 柔らかい ひょうげん等も、ちょうこく刀のとくちょうを りかいして こうか的に使っています。必要な線が せいせんされており、大変いんしょう的です。白と黒が はっきり出たすりもすばらしく、 見ごたえある 作品になっています。

恵那ライオンズクラブ会長賞

ソーラン・ソーラン！

岩邑小学校3年

加藤 愛穂 さん



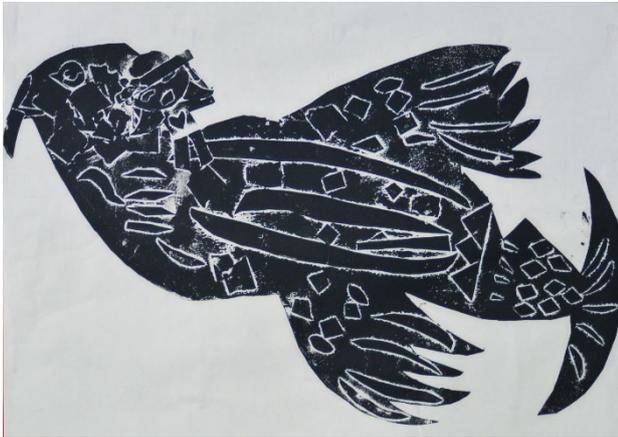
この作品のすばらしさは 「はくりよく」です。にぎられた指、ふんばる足など、足の指先や かみの毛の流れまで こだわって 全身ではくりよくが 表げんされています。また、この作品の しんけんな表じょうから、作者の愛穂さんが 自分の学校のソーランに ほこりをもって 一生けんめい 取り組んだ様子が わかります。よく人のからだを かんさつして えがかれており、4年生で こんなにしっかり つくりあげることにおどろきました。次の作品も楽しみにしています。

恵那ロータリークラブ会長賞

やさしくてつよいとり

長島小学校2年

佐藤 玲愛 さん



がめんいっぱいにつばさを広げた大きな鳥がえがかれています。首元にのっているのは佐藤さんでしょうか。鳥の目はたんじゅんな丸ではなく、目頭をいしきしてはんを作っています。鳥のとくちょうをよくしらべましたね。だimeiの通り目のひょうじょうはりりしくもやさしく見えます。三角や四角、細長いはんをつかってひょうげんされた鳥のからだやつばさのもようは、とてもバランスよくていねいにはいちして作られています。

恵那青年会議所理事長賞

ルル、こっち向いて！

串原小学校4年

安藤 那々実 さん



「ルル、こっち向いて！」とうかがうようにルルの顔をのぞきこむ安藤さん。そんなことはつゆ知らず、そっぽを向くルル。それぞれのひょうじょうがなんともかわいらしく、二人の何気ないにちじょうの一コマです。安藤さんのルルのほほを包みこむ大きな右手に、ルルへのあいじょうを感じます。上手にすられており、白黒のメリハリがしっかりしているため、安藤さんとルルのほり分けがよく分かります。特に、ルルのツンツンとした毛なみが細かくほりこむことで、うまくひょうげんされています。